

## 手袋使用情報チラシ

### 病原体の伝播を防ぐための医療用手袋使用における根拠と考慮すべきことの概略

#### 定義

医療用手袋とは、「医療において使用される使い捨て手袋」と定義される；これらには：

1. エグザミネーション（検査用）手袋（未滅菌あるいは滅菌済み）
2. 厚み、弾力性と強さに特徴のある手術用手袋で、滅菌済み
3. 化学療法手袋 — この文書では扱われない

#### 医療用手袋を使う根拠：

医療用手袋は、二つの主な理由で着用を推奨されます：

1. 医療従事者の手が、血液や体液で汚染されるリスクを減らすため
2. 一人の患者からもう一人へと同様に、病原体が環境へ、そして医療従事者から患者へとその逆へも広がるリスクを減らすため

それ故、手袋は、接触予防策とアウトブレイクの間、（粘膜と正常でない皮膚への接触も含め）血液と全ての体液への曝露を伴う全ての患者ケア活動の間に使用される。

医療従事者の手の汚染を防ぎ、医療における病原体の伝播を減らす役に立つという手袋の効果は、いくつかの臨床研究で確認されています。

それにしても、医療従事者は、手袋は必ずしも手指汚染に対する完璧な保護を提供しないことも知らされるべきです。

病原体は手袋の小さな欠損あるいは手袋を脱ぐときに手を汚染することで、ケア供給者の手に付着するかもしれません。

手指擦式あるいは手洗いによる手指衛生は、手袋を脱いだ後の手の除染を保証するために基本であり続けています。

**大切な学習ポイント：手袋は手指汚染に対する完璧な保護を提供しない。**

手指衛生の方針に従って手袋を着用する影響は、発表された研究が矛盾する結果をもたらしており、決定的には確立されていません。

しかしながら、接触予防策を必要とする患者のためのケアの全体的なエピソードの間に手袋を着用するという推奨は、手指衛生の適応のように、手袋の脱ぐ適応を考慮しないと、実際には病原体の伝播に通じる可能性があります。

**大切な学習ポイント：手指衛生を実行する必要を考慮しない接触予防策のための手袋の長い使用は、病原体の伝播となる可能性があります。**

#### 手袋使用と手指衛生の必要性：

- 手袋着用も必要とされる接触に先だって手指衛生が適応とされる時、手指擦式あるいは手洗いが手袋着用の前に行われるべきです。
- 手袋着用が必要とされる接触に引き続き、手指衛生の適応がある時は、手指擦式あるいは手洗いが手袋を脱いだ後に行われるべきです。
- 医療従事者が手袋を着用している間に手指衛生の適応が発生した時は、手指擦式あるいは手洗いを行うために手袋を脱がなくてはなりません。

#### 不適切な手袋使用：

- 適応でない手袋使用は、資源の無駄であり、交差感染の減少に寄与しません。
- それは、同様に手指衛生の機会を見逃すことになるかもしれません。
- 不適切な保管、不適切な着脱のタイミングとテクニックにより汚染された手袋の使用は、同様に病原体の伝播となりえます。

**大切な学習ポイント：医療従事者が、手袋を着用し交換すべき特別な臨床現場と、手袋の使用が必要とされないところを区別できることは重要です。**

しかも、医療従事者は、手袋の着脱のタイミング（表を参照）について正確に知らされるべきです。

## 使用される手袋の種類：

一般的な方針として、医療施設内での擦式アルコール製剤との反応を避けるため、ノンパウダーの手袋の選択が推奨されます。

## 再使用/再処理：

- 医療用手袋は単回使用アイテムなので、資源が不足していたり、手袋の供給が限定的な多くの医療施設で普通の方法であっても、手袋の除染や再処理は推奨されず、避けるべきです。
- 目下のところ、安全な手袋を再処理するための標準化された、有効で手ごろな方法はありません。

不適切な手袋使用を減らすための教育活動、品質のよい使い捨て手袋の購入とタイムリーな方法でストックを補充するような、医療施設での手袋再使用を防ぐためのあらゆる可能性のある努力がなされるべきです。

## 医療用手袋使用のための主要なメッセージの要約：

- 手袋は、医療従事者の手の汚染を防ぎ、2つの極めて重要な因子に依存する病原体の伝播を減らすことに有効です。
  - それらは適切に使用される。
  - タイムリーな手指衛生は、手指擦式あるいは手洗いの方法を使ってなされる。
- 安全な手袋使用には：
  - 手袋の汚染を防ぐ正しい手袋着用の技術を使う
  - 医療従事者の手が汚れないように手袋を脱ぐ正しい技術を使う（未滅菌エグザミネーション手袋の着脱法の図を参照）。
- 手袋の不必要および不適切使用は、資源の無駄となり、病原体伝播のリスクを増加させるかもしれない。
- 医療従事者は、合理的なイベント順序に従って、行動をどのように計画し実行するかと、手袋の使用と交換の必要性を最小限とするためにできる限りノンタッチ・テクニックを使用する方法を訓練されるべきです。
- もし手袋の完全性に疑いが起これば（例えば、穴が開いた）、できる限り早く交換し、手指衛生を完了させる。
- 長時間外科的処置（30分以上）、大量の血液・体液と接触する処置、いくつかの高リスク整形外科処

置で、HBV、HCVとHIVの高罹患率の国では2重手袋が適切な行為と考えられている。

- 石油系ハンドローションあるいはクリームの使用は、ラテックス手袋の完全性に有害な効果があるかもしれない。いくつかの擦式アルコール製剤は医療従事者の手に残ったパウダーに作用するかもしれません。

## 手袋使用の上の推奨の要約：

- A. 手袋着用は決して手指衛生適応を変更したり、擦式アルコール製剤での擦式あるいは石けんと流水による手洗いによる手指衛生行動の代りとなるものではありません。
- B. 血液・体液、粘膜、正常でない皮膚あるいは感染性の可能性のある物質に触れることが合理的に予想できる時は、手袋を着用する。
- C. 患者をケアした後は手袋を脱ぐ。1人を上回る患者のケアに、同じ手袋を着けない。
- D. 手袋着用、手袋交換と脱ぐ時は以下の状況に従う；患者ケアで、汚染した身体部位からもう一つの部位に移るとき（粘膜、正常でない皮膚あるいは同じ患者や環境にある医療器具を含む）。
- E. 再処理あるいは除染した後の手袋の再使用は推奨しない。

## 表 手袋着脱の適応の要約：

	適応
手袋を着ける	1) 無菌操作の前 2) 無菌状態の存在の有無に関わらず、正常でない皮膚や粘膜に触れることを含み、血液・体液に触れる可能性がある時 3) 接触予防策の間、患者（および患者のすぐ側の環境）に接触する時。
手袋を脱ぐ	1) 手袋が破損したら直ちに（あるいは完全性がなくなったと思われる時） 2) 血液・体液、正常でない皮膚や粘膜との接触が発生し終了した時 3) 一人の患者および患者環境と、あるいは患者の汚染した部位との接触が終わった時 4) 手指衛生の適応がある時

**手袋ピラミッド** — いつ手袋を着ける（および着けない）かを意思決定するために手袋は「標準予防策」と「接触予防策」に従って着用されなければならない。

ピラミッドのは、手袋が適応とされない場合、そしてエグザミネーションあるいは滅菌手袋が適応であるいくつかの臨床例を詳述します。手指衛生は、手袋使用の適応に関わらず、しかるべき時には実行されるべきです。

### 滅菌手袋の適応

全ての外科的処置；経腔分娩；侵襲的放射線学的処置；血管アクセスと手順の実行（中心ライン）；完全静脈栄養と化学療法薬物の準備。

### 臨床現場でのエグザミネーション手袋の適応

血液、体液、分泌物、排泄物及び目で見て体液に汚染したアイテムに触れる可能性。直接的に患者に触れる：血液との接触；粘膜および正常でない皮膚との接触；高度に感染性および危険な有機体の存在の可能性；疫学的あるいは緊急の状態；静脈路確保と抜去；血液吸引；静脈ラインの終了；骨盤および腔検査；非閉鎖式気管内チューブの吸引。

間接的に患者に触れる；嘔吐ベースンを空にする；器具を扱い洗浄する；廃棄物を扱う；飛び散った体液をきれいにする。

### （接触予防策を除いて）手袋着用の適応ではない

血液・体液あるいは汚染された環境に触れる可能性がない

直接的に患者に触れる：血圧、体温や脈拍を測る；皮下注射や筋肉注射の実行；患者を入浴させ服を着せる；患者搬送；（分泌物のない）目や耳のケア；血液の漏れのない全ての血管ラインの取り扱い。

間接的に患者に触れる；電話を使う；患者カルテに記入；経口薬の投与；患者の食事を配膳し下膳する；患者ベッドにリネンを取り除き交換する；非侵襲的換気装置や酸素カニューレを設置する；患者の家具を動かす。

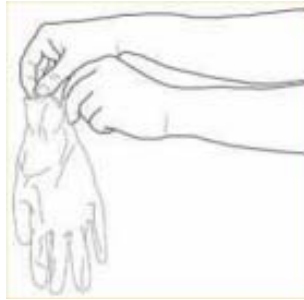
## 未滅菌手袋の着脱法

手袋着用が必要な接触の前の手指衛生の実施時、擦式アルコール製剤あるいは石けんと流水で手指衛生を行う。

### I. 手袋の着用法



1.手袋を元の箱から取り出す。



2.手首にあたる手袋の限定した表面だけに触れる（袖口の端先）



3.最初の手袋を着ける。



4.素手で2番目の手袋を取り、手首に当たる手袋の限定した表面だけを触る。



5.手袋をはめた手で前腕の皮膚に触れることを避けるため、手袋を着けた手の曲げた指で着用した手袋の外の表面をひっくり返す、このように2番目の手に手袋を着ける。

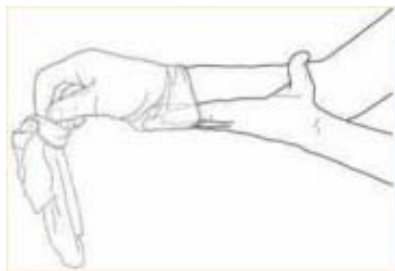


6.いったん手袋を着ければ、手袋使用のための適応や状況でない全ての他のものに触れてはなりません。

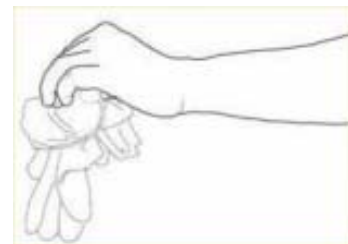
### II. 手袋の脱ぎ方



1. 前腕の皮膚に触れないで、脱ぐために手首のところで1つの手袋を摘み、裏返しになるよう手袋を手から剥がします。



2.手袋をした手で脱いだ手袋を保持し、手袋をしていない手の指を手袋と手首の間の中側に滑り込ませる。2番目の手袋を手からまき下ろして脱ぎ、最初の手袋を畳み込む。



3.脱いだ手袋を捨てる。

4.そこで、擦式アルコール製剤あるいは石けんと流水で手指衛生を行う。